

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2022年度 助成者)

作成日 2022年 8月 25日

氏名 (フリガナ)	大屋健成 (オオヤケンセイ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2022年8月15日 (月) ~ 8月20日 (土)
大学名	慶應義塾大学
学年	5年

ハワイに向かう直前、私の心は揺れていました。「このままハワイで遊びたい」「たった5日で何が変わるというのだ」そんな囁きが自分の中で繰り返し再生されていました。結論から言います。そんな気持ちは一瞬で吹き飛ばされ、今では心の底からこのプログラムに参加してよかったと感じています。受けた衝撃は言葉になりませんが、なんとか分解・言語化してこの報告書に記していこうと思います。

①アメリカに行こうと決意させてくれたこと

プログラム参加前、自分はなんとなく、本当になんとか「アメリカ行きたいなあ」などという甘い考えを持っていました。それは教育に対する興味や、人生でなんとなく一回やってみたいミーハー精神などが原因だと考えています。しかしハワイで、実際に海外でレジデントをされた先生方からのお話を何度も聞いていくうちに、そしてアメリカの医学教育と日本のそれとの差を知れば知るほどに、アメリカに行きたい気持ちは固いものになっていきました。SNS や youtube で見るのとでは鮮度の違う情報に触れ、実際に経験された方々と直接お話できたことがこの決意につながったのだと思っています。

②ハワイ大学、ひいてはアメリカの医学生のレベルの高さを思い知らされたこと

基本的にプログラム中、毎晩 JABSON (ハワイ大学医学部) の学生と history taking や case presentation の練習を行っていました。彼らの豊富な知識量のおかげで練習は円滑に進み、自分たちの練習相手も同じくらいの学年だろうと思っていたら、医学部に進学してからたったの数ヶ月しか経っていない学生でした。自分の無力さを感じるとともに猛烈な悔しさを覚えました。自分たちは海外の counterparts にとって、相手にすらならないのです。しかし日本の学生が、そして自分がそこまで無能であるとは思いません。すぐにそのステージに追いつくから、ほんの少しだけ待ってろ、そう誓いました。

③貴重な人と人との繋がりを得られたこと

日本では「コネ」という単語はなんだかネガティブなイメージを持たれています。まるで「ずる」をしているかのような、そんな響きです。アメリカではそんな甘いことは言われていません。そもそも採用面接に呼ばれるためだけでも大変な競争率を勝ち抜く必要がある中、connection を持つことは大きなアドバンテージであり、至極真っ当なことであると認識しました。アメリカに行くためだけではなく、これからの人生において、自分ひとりの力だけではどうにもならないことはいくらかもあります。そんな時にもお互い助け合えるような仲間、先輩、先生方と知り合えたことは一生の財産です。とあるレジデントの先生からのアドバイス通り、「うざがられるくらい連絡して、関係を大事にしていって」いこうと思います。

最後になりますが、コロナ禍の中で現地開催にご尽力していただいた小林恵一先生、Mika Kuriyama 先生、Dr. Shon を始めとする先生方、事務局の皆様、授業に深く携わっていただいた Naomasa Fukase 先生、Kenta Mori 先生、Kazuhito Nabeshima 先生、Hiroyuki Katoh 先生、大変貴重な講演をいただいた Junji Machi 先生、Ken Kimura 先生、Kinue Miki 先生、Robert V. Jao 先生、プログラムに参加した仲間たち、協力してくださったハワイ大学の学生の皆さん、毎日 (最終日の打ち上げまで...!) バスで送り迎えして下さった皆さん、いつも支えてくれる家族にこの場を借りて心より御礼申し上げます。